

九月定例市議会終る

追加更正予算など可決さる

追加議案として追加更正予算ほか三十一件が上程され、内二十七件が原案通り可決、十月三十一日に閉会しました。可決された議案と内容の主なものを次に掲載しました。

は、サービスに欠けないよ
社会及労働施設費の中の生産
助費など義務づけられた経費
については追加などが考慮さ
ります。

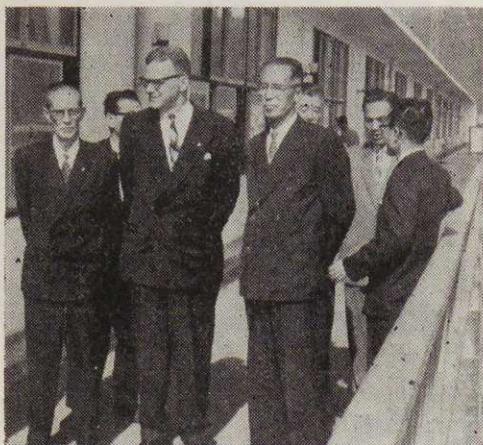
発行所 焼津市役所
編集兼
发行人 山口謙三
印刷所 藤田印刷所
定価 2円

お知らせ
広報やいづの発行回数
は11月から月1回にな
りました



教育委員に
岡田清吉氏

まず才出では、産業経済費、役所費、公債費、統計調査費を除いたすべてが節減されています。議会費においては、一五〇万一千円の減、消防費は当初予算額二九六五万一千円から一五六三千円九千円を削減、土木費は宅地造成事業を特別会計に移した関係もあって三二六一萬九千円が六〇四万八千円に更正されました。



横浜アメリカ次席総領事
産業施設の視察に来焼

横浜アメリカ領事官の次席総領事バターン氏は港を中心に本市産業を公式に視察するため10月29、30日の両日来焼した。漁協来賓室で焼津市産業の一般的な事柄をきいたのち赤阪鉄工など市内の代表的工場、会社を視察、翌30日早朝には魚市場のセリ売状況等も見物した。アメリカ本国に輸入されている製品がいかにして生産されるか、その現状を実地にみるためにきた。ヤイズは実にワンダフル。

アメリカ領事館からの視察、訪問は戦後数回、どうやらヤイツが気に入ったようだ。

〔写真・左から二人目の人のがパターン氏〕

及財産収入においても旧東小学校敷地売払代一二五八万円、吉有土地建物売払代等の収入一六九〇万九千円を追加して、二三〇一万八千円に増額されておりまます。寄附金にあつては、由し出のあつた漁協からの五〇〇万円と焼津信用金庫の一〇〇万円が見込まれてあり、三二一〇一五五十円に増額、その他使田料及び手数料についても一〇〇万円増加して一一二二万円に、国庫支中金、県支出金もおののおの増額されています(支出金は認証事業費)

選挙人名簿の縦覧

昭和34年9月15日現在調製の基本・海区
両選挙人名簿の縦覽をいたしましょう。

期間 11月5日—11月19日

市役所にて毎日午前8時30分から午後5時まで

まず才出では、産業経済費、役所費、公債費、統計調査費を除いたすべてが節減されています。議會費においては、一五〇万一千円の減、消防費は当初予算額二五六五万一千円から一五六三万九千円削減、土木費は宅地造成事業を特別会計に移した關係もあって三二六一万九千円が六七六八九万円の予算額が六八〇四万八千円に更正されました。

昭和三十四年度焼津市才入才出追加更正予算(第四回)一般会計総額八億二百六十六万三市民生活が密接なものにあってた。その他社会及労働施設費、保健衛生費、財産費、選舉費等も減額されています。しかし保健康理と

築費二三〇〇万、小川小学校危険校舎改築費二七九〇万円、学農山漁村建設総合対策費、災害校整備資金償還一億九五〇〇万円、復旧事業費、漁港修築事業費等、病院会計特別繰出金一億三円、補助負担のために四八六万円八九五万三千円の三億九七七〇が計上され四八二〇万八千円と

才人では、市税が二億一五五八万五千円の既決予算額に、市民税、固定資産税の自然増、電気ガス税等の増収分一八五二万五千円を見込んで二億四四二一五三〇円と算出する。

なりました。退職者の手当に支當するため役所費も一四一萬八千円が増額、六七〇〇万円余となりました。

焼津市温泉管理条例制定について：温泉の管理に必要な条例が定められています。

員、焼津市公会議員などを歴任。
現在、焼津商工会議所、昭和水産、昭和漁業、焼津鉄工などに役職にあります。

に示されることは、予算編成の過程で、行政水準の低下、市町村の財政力の弱さ、民サービスの欠けることのない地域の実情を踏まえ、追加正予算の編成がなされたものである。

教育委員に
岡田清吉氏
費などという才出額の割合に応じて国、県からあたえられる)才入欠かん補てん金として三億六千余万円が計上された雑収入は、三億九四六三万九千円に追加更正されました。

災害地救援のご協力

ありがとうございました

寄附者芳名

(敬称略 順不同)

本豊 鈴木一子 鈴木稔 石田
弘子 長谷川三夫 内藤末雄大富小六年生 朝倉安治 佐藤
勝司 狹間やえ 佐野ひろ子
文化子供会 滝口鉄六左門

